街に、ルネッサンス
UR都市機構

平成 30(2018)年 8 月 2 日
独立行政法人 都市再生機構
東日本賃貸住宅本部

「団地の未来プロジェクト」
洋光台中央　広場オープニングセレモニー開催のご報告
（建築家　隈研吾氏デザイン監修）

独立行政法人都市再生機構（UR 都市機構）では、「団地の未来プロジェクト」(http://danchinomirai.com/)の一環として、昭和 45 年にJR洋光台駅前に誕生したUR賃貸住宅「洋光台中央」の広場を、各界の有識者のアドバイスや街の人のご意見を踏まえて、駅前空間に回遊性を生み出し、また、人が集い、溜まることが出来る賑わいの場とすることにより、団地を核とした洋光台エリア全体の活性化を目指して、大規模な広場リニューアル工事を実施しました。

広場のデザイン監修は団地の未来プロジェクトのディレクターアーキテクトである隈研吾（くまけんご）氏、広場に掲げるサインやMAP のデザインは、プロジェクトディレクターである佐藤可士和（さとうかしわ）氏により手がけられた、お二人による初のコラボレーション作品となります。

8 月 1 日（水）に実施したオープニングセレモニーでは、隈研吾氏、プロジェクトディレクターである佐藤可士和氏をはじめとする来賓のご挨拶の後、参加者全員が広場に輪になって佐藤可士和氏デザインの団地の未来プロジェクトオリジナルテープによるテープカットを実施しました。

セレモニーの終了後は、広場にてキッチンカーや商店による出店、スタンプラリーなどのイベントを開催し、地域の皆さんをはじめ多くの方々に楽しんでいただきました。

なお、新たに生み出した 2 階部分の店舗には『クラフトマルシェゾーン』として、工芸作家の出店を図ったり、11 月には『団地のマルシェ「洋光台クラフトマルシェ祭」』を開催するなど賑わいを創出してまいります。今後ともご期待ください。

左から　横浜市技監兼建築局長 坂和伸賢（さかわしんけん）氏、隈研吾氏、中島正弘 UR 都市機構理事長、佐藤可士和氏、洋光台まちづくり協議会 会長 三上勇夫（みかみいさお）氏

団地の未来プロジェクトオリジナルテープをセレモニー参加者全員でテープカットをいたしました。

【お問い合わせ先】　●UR都市機構　東日本賃貸住宅本部
神奈川エリア経営部　ストック活用計画課　（電話）045-682-1892
総務部　総務・法務課　（電話）03-5323-2555

団地の未来

The Future of Housing Complex Project
danchinomirai.com

洋光台中央 広場オープニングセレモニー

2018/08/01

ごあいさつ

UR都市機構では、神奈川県横浜市磯子区の「洋光台団地」をモデルケースとして、継続的に団地の価値を上げていくことで、より良い社会づくりに貢献していく「団地の未来プロジェクト」を、平成27年3月より進めております。

本プロジェクトは、建築家の隈研吾氏を、新しいライフスタイルに適した建築・空間設計を創造する「ディレクターアーキテクト」として、また、クリエイティブディレクターの佐藤可士和氏を、人が集まって住む団地だからこそできる新しい住まい方と地域のあり方を提示していく「プロジェクトディレクター」として迎え入れ、スタートしました。

これまで各界の方々と意見交換を行い、多角的な視点からアイデアを議論し、建物のリニューアルプロジェクトをはじめ、防災の新しいカタチの提案から地域の方々にもご参加いただいたフィルムコミッションまで、様々な取り組みを並行して行ってまいりましたが、このたびいよいよ、地域の玄関であるJR洋光台駅前の「洋光台中央」広場のリニューアル工事が完成いたしました。

本工事は、各界の有識者の皆様によるアドバイスや街の方々のご意見を踏まえ、大変な活気を見せていたかつての姿のように、駅前空間に回遊性を生み出し、人が集い、溜まることができる賑わいの場とすることによって、団地を核とした洋光台エリア全体の活性化を図るべく、建築家の隈研吾氏のデザイン監修により実施したものです。新たに生み出された建物2階部分の店舗には「クラフトマルシェゾーン」として、工芸作家の方々の出店を図り、ハンドメイドの雑貨・アクセサリー等を手がけるクリエーターが全国から集うイベントを開催するなど、新たな情報発信を図る拠点としていきたいと考えております。

今回の広場完成を皮切りに、アイデアコンペ最優秀案をベースとした洋光台北団地集会所の改修、一部の高層住棟の建替えなど、取り組みも加速していく予定です。これからも多くの皆様のご支援を賜りながら、地域の皆様とともに進めてまいります。どうぞご期待ください。

独立行政法人 都市再生機構
理事長
中島ひ弘

リニューアルプロジェクト

・洋光台中央団地 住棟外壁リニューアル

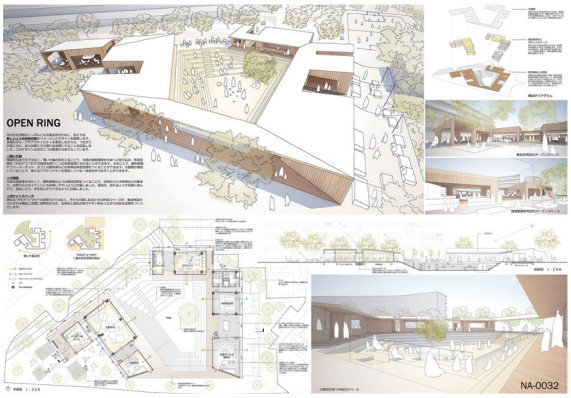
露出していた室外機置き場をアルミ製の“木の葉パネル”で覆うことで、マイナス要素をプラス要素へと反転。コンセプトである“やわらかなヴィレッジ”にふさわしい、統一感のある色彩を実現しました。

・洋光台中央団地 広場改修

1970年の完成時よりコンクリートでつくられていた“重たくかたい”広場に「庇」を導入。庇によって生まれる「縁側空間」とともに、“ヴィレッジ”のやわらかさやあたたかさを生み出しています。

・洋光台北団地 集会所 アイデアコンペの実施

防災、健康、知育・教育、多世代交流などこれからの地域コミュニティに求められる役割を果たす新たな拠点として、洋光台北団地集会所及び周辺外構の再整備リニューアルコンペを実施。平成28年4月、応募総数148点の中から1次審査で選ばれた6組による公開プレゼンテーションを行い各賞を決定し最優秀賞受賞者をデザインアーキテクトとして迎え入れ、隈研吾氏・佐藤可士和氏によるディレクションのもと、実施案を検討中です。（平成30年度着工・平成32年度完成予定）



新しい防災のカタチ

平成29年度に「高齢者を原動力とした地域防災力アップ」をテーマに講座や小学校での防災授業を実施。防災を学び「防災インストラクター」として認定された地域の高齢者が、学んだ知識や技を子どもたちに伝える多世代交流のまちづくりプログラム。今後は授業の定着や地域活動への展開を目指しています。

フィルムコミッション

平成28年7月公開の映画「シン・ゴジラ」のロケ撮影が前年に洋光台駅前通りや団地内などで行われました。洋光台まちづくり協議会・横浜市・UR都市機構が連携・協力し、多くの地域の方々が撮影に参加できるよう映画会社へ要請。公開後には洋光台中央広場で実物大の足跡を体感できるイベントなどが実施されました。

継続的なコンテンツ発信

プロジェクトWEBサイト内コンテンツ「TALKING」のコーナーでは、佐藤可士和氏を中心に対談形式で各界の方々と継続的に意見交換。“オープンイノベーション”をコンセプトに、集住の新しいあり方といった今後のビジョンから具体的な施策アイデアまで、多角的な視点で様々な議論を展開中です。

プロジェクトディレクター 佐藤可士和より

約50年の歴史を持つ“団地”の価値を見つめ直し、人々の新しい住まい方の考察を通じて、社会の豊かな未来像を描く。「団地の未来プロジェクト」は、平成27年3月のプレス発表以来、多くの方々のご支援とご協力をいただき、実りある成果が見えはじめています。「集住のパワーを最大化する」という大きな考え方のもと、引き続き社会の流れを鑑みつつ、住民の皆様をはじめさまざまな分野のプロフェッショナルな方々のご協力をいただきながら、一歩ずつ前へ進んでまいります。次のステージは、今回の広場改修完成を皮切りに、集会所のリニューアルなど目に見える成果をひとつずつお届けしていく予定です。これからも、「団地の未来プロジェクト」にどうぞご期待ください。

クリエイティブディレクター ／ SAMURAI 代表

佐藤 可士和　Kashiwa Sato

博報堂を経てSAMURAI設立。ブランド戦略のトータルプロデューサーとして、コンセプトの構築からコミュニケーション計画の設計、ビジュアル開発まで、強力なクリエイティビティによる一気通貫した仕事は、多方面より高い評価を得ている。グローバル社会に新しい視点を提示する、日本を代表するクリエーター。主な仕事にユニクロ、セブンイレブン、楽天、今治タオル、三井物産、ヤンマーのブランディングプロジェクト、ふじようちえん、カップヌードルミュージアムのトータルプロデュース、国立新美術館、東京都交響楽団のシンボルマークデザインなど。著書にベストセラーの「佐藤可士和の超整理術」をはじめ「聞き上手話し上手」、「佐藤可士和の打ち合わせ」など。慶應義塾大学特別招聘教授、多摩美術大学客員教授。公式サイト: kashiwasato.com

広場デザイン

団地ならではのゆったり感を引き出す“立体縁側広場”

高度成長時代の象徴とも言える団地、その根底に流れる日本的なゆったりとした感性を現代に甦らせたいと考えました。具体的にはまず、ダイナミックな起伏と複雑な平面形状を持つ既存広場になじむようなやわらかい“庇”を2Fレベルに挿入し、天井が高く、解放的で爽やかな“縁側空間”を造り出し、その縁側の中に、敷地の高低差を活かした“2Fデッキ”を設けることで、立体的ににぎわいが展開する“立体縁側”を纏った新しい広場風景を創造しました。

人と自然に優しい“環境マテリアル”

広場を構成するマテリアルには、リサイクル材や自然素材などの“環境マテリアル”を中心に採用することで、コンクリートのハコに囲まれた既存の“かたい広場”から、人と自然に優しい“やわらかい広場”として再生しました。メインの広場には再生ガラスを骨材利用したオリジナルの舗装ブロックを製作し、店舗周りや広場階段のコンクリート舗装は、全面的に洗い出しをかけることで石の質感が表面化したヒューマンな表情を与えています。

広場にアクティビティを誘発する“ダンチファーニチャー”

人々のアクティビティを誘発させる装置として、木でできた“ダンチファーニチャー”を点在させ、昔の日本の“縁側”を彷彿とさせるあたたかい風景を団地に取り戻しています。時間とともに木のファーニチャーがまちに広がり、将来的には洋光台のまち全体に“縁側”の懐かしく温かい空気感が広がることも期待しています。

“立体縁側広場”と“環境マテリアル”、“ダンチファーニチャー”で団地を包み込むことよりに、21世紀のライフスタイルにふさわしい“やわらかなヴィレッジ”として変身させることを試みました。

明るく開放感のある“縁側”

広場を見下ろす“2Fデッキ”

広場と“2Fデッキ”をつなぐ大階段

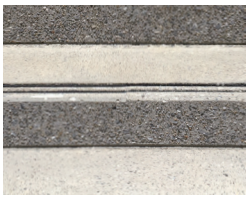
サインと掲示板を兼ねた“シンボルツリー”

植栽帯とベンチが融合した“エンガワプランター”

屋外ファニチャー: 木

舗装: 再生ガラス入りブロック

大階段: 樹脂洗出し



広場階段: コンクリート洗出し

軒天: 木毛セメント板

ディレクターアーキテクト 隈研吾より

昔の団地はめちゃめちゃかっこいいし、ゆとりがありました。

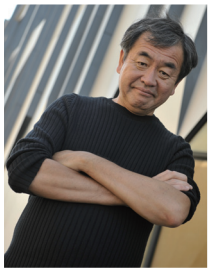
そのゆとりたっぷりの広場をコミュニティーの中心として再生させました。

広場に縁側をつけたり、木の縁台をつけたりして、よりやわらかく、あったかくしました。

団地の再生をきっかけに、日本を再生したいというのが僕の野望です。

ディレクターアーキテクト ／ 建築家

隈 研吾　Kengo Kuma



©J. C. Carbonne

1954年生。東京大学建築学科大学院修了。1990年隈研吾建築都市設計事務所設立。現在、東京大学教授。1964年東京オリンピック時に見た丹下健三の代々木屋内競技場に衝撃を受け、幼少期より建築家を目指す。大学では、原広司、内田祥哉に師事し、大学院時代に、アフリカのサハラ砂漠を横断し、集落の調査を行い、集落の美と力にめざめる。コロンビア大学客員研究員を経て、1990年、隈研吾建築都市設計事務所を設立。これまで20か国を超す国々で建築を設計し、（日本建築学会賞、フィンランドより国際木の建築賞、イタリアより国際石の建築賞、他）、国内外で様々な賞を受けている。その土地の環境、文化に溶け込む建築を目指し、ヒューマンスケールのやさしく、やわらかなデザインを提案している。また、コンクリートや鉄に代わる新しい素材の探求を通じて、工業化社会の後の建築のあり方を追求している。

今後の展開

洋光台中央のテナントリーシング

クラフトマルシェゾーン（2階部分）

民間事業者への空き店舗のマスターリースによる、
新たな顧客層へ訴求する魅力ある商店街づくり

クラフトマルシェ祭の開催

クラフトマルシェ祭イメージ

ハンドメイドの雑貨・アクセサリーなどを手がける
個性あふれるクリエーターが、全国から集うイベントに

洋光台北団地 集会所改修

北集会所改修イメージ（H30.7月現在）

洋光台北団地集会所のアイデアコンペ最優秀案を
ベースに、団地のシンボル的な存在である集会所の
大規模改修を実施

洋光台北団地 高層棟建替

建替え住棟（洋光台北1･11号棟）イメージ

高層棟建替えによって生まれる新規住棟の新たな
共用部の使い方の提案